

# 1999年～2001年宝島でのアサギマダラのわたりに関する調査

廣 森 敏 昭

Research on migration of *Parantica Sita* in Takarajima Island from 1999 to 2001

Toshiaki HIROMORI

## 1 はじめに

アサギマダラはマダラチョウ科のチョウで、我が国では北海道から九州・南西諸島まで、国外では台湾・中国南部から西北ヒマラヤまで広く分布している。最近では、渡りをするチョウとして知られ、その調査も全国的に広がりつつある。

筆者は、1999年から2001年にかけて3回ほどトカラ列島の宝島でアサギマダラのマーキングに関する簡単な調査を実施しているので、その状況等を報告する。

## 2 調査の実施状況

### (1) 1999年11月の調査

1999年11月20日～24日の5日間、宝島の昆虫調査を実施。その際、ちょうどビワ畑で開花中のビワの花でアサギマダラが集団吸蜜していた。この現象は島全体のビワ畑で見られたが、女神山近くの1つのビワ畑では、特に密度が高く1本のビワの木に20～30頭、畑全体で数百頭いる状況だった。島全体では何千頭いるのだろうか。ここで21日と22日の午後、計260頭にマーキングした。この時に標識されたアサギマダラを捕獲した。詳しいデータは下記のとおりである。

標識：「パイオ2485」

標識地：長崎県西彼杵郡外海町      再捕獲地：鹿児島県十島村宝島(移動距離 約430km)

標識日：1999年10月24日      →      再捕獲日：1999年11月26日(移動日数27日)

標識者：伊藤雅男氏      再捕獲者：廣森敏昭

### (2) 2000年12月の調査

2000年12月4日～6日の3日間、今回はアサギマダラのマーキングを主目的に実施した。この時期はビワの花は盛りを過ぎていて、アサギマダラはビワ畑ではあまり見られず、その代わり道路沿いのツワブキの花で多く吸蜜していた。3日間で島全体の一周道路沿いで全部で530頭に「タカラ 番号 2000,12,00」の標識をした。この中の1頭が翌年の1月2日に沖縄県伊良部島で再捕獲された。詳しいデータは下記のとおりである。

標識：「タカラ454,2000.12.6」

標識地：鹿児島県十島村宝島      再捕獲地：沖縄県伊良部島(移動距離 約550km)

標識日：2000年12月6日      →      再捕獲日：2001年1月2日(移動日数28日)

標識者：廣森敏昭      再捕獲者：多田弘一氏(三重県在住)

この時期、宝島にアサギマダラが全部でどれくらいの数がいるのかという疑問が起こるが、詳しい調査がないので、はっきりしたことはいえない。だが、3日目になると、ネットに入っ

たアサギマダラの1～2割にマーク蝶が混ざることになったことから、全くの推論になるが、マークした530頭の10倍前後の数千頭ぐらいがいるのではないかと思う。

### (3) 2001年2月の調査

#### ① 調査のねらい

2000年12月にマーキングしたアサギマダラの1頭が沖縄県伊良部島で再捕獲されたことから、宝島に渡ってきた他のアサギマダラはその後、どうしたのだろうか？という疑問が湧いてきた。他のアサギマダラもほとんど全部宝島から南の方へ渡ったのだろうか？それとも、たまたま再捕獲された「タカラ454」だけが渡って、ほとんどのアサギマダラは宝島で越冬するのか？宝島のアサギマダラの何割かが南へ渡り、何割かは宝島で越冬するのか？だとすると、渡るアサギマダラと越冬するアサギマダラの割合はどれくらいなのか？

これらの疑問を解決するためには、2月に再度宝島のアサギマダラを捕獲し、2000年12月のマーク個体がどれくらい残っているか、それともほとんど残っていないのか等を調査する必要があると思い、再調査することにした。

#### ② 調査の実際

期間 2001年2月24日(土)午後～2月27日(火)午前

環境 この時期、道路沿いにはシロノセンダングサとテリハノイバラなどの花が咲いており、アサギマダラの給餌植物となりえる。

2月24日(土) 15:30～17:00 天気 曇り時々しぐれ雨

島一周道路沿いを車でゆっくり移動しチョウを捜すが、途中ルリタテハを2匹目撃しただけで、アサギマダラは一匹も見かけない。大池周辺にもアサギマダラはいない。

2月25日(日) 9:00～15:00 天気 曇りで北風が強い

気温が上がった11時30分すぎから午後3時ころまでに大池近くで1頭、島の一周道路で2頭の計3頭だけマークする。

2月26日(月) 13:00～16:00 天気 曇り弱い北風

25日とほとんど同じ天候だが、気温は体感温度ではあるが少し高めである。午後から始める。島の一周道路で計13頭マークする。4頭目に昨年12月4日に筆者が宝島の女神山近くでマーキングしたアサギマダラの♂を再捕獲する。

標識 「タカラ 20 12.12.4」 (写真)

2月27日(火) 9:00～11:30 天気 快晴暖かい

昨日、一昨日と違い、風もなく快晴で気温も高いせいか、多くのアサギマダラを目撃することができた。計64頭のアサギマダラにマーキングできた。島の北側より南側に多い。時間が許せばまだ多くのアサギマダラにマーキングできた。

#### ③ 調査の結果

この期間の総マーキング数は80頭であった。

- ・ ♂♀の数は♂45頭、♀35頭であった。

- ・ 鮮度の度合いを、A：極めて新鮮（翅のつやが羽化後すぐという状態）、B：新鮮（つやが少しとれている）、C：やや汚損（翅のつやがほとんどとれて傷もある）、D：汚損（翅がひどくいたんでいる）とすると、A：50頭、B：11頭、C：18頭、D：1頭であった。A,B61頭の新鮮な個体はたぶん今年になって宝島で羽化した個体であり、C,D19頭は12月4日にマークされた「タカラ 20」をはじめ、昨年からの越冬個体であろうと推論される。宝島全体で越冬したアサギマダラはどれくらいいるのだろうか？マークした10倍いたとして約200頭、20倍で約400頭、という数字になる。
- ・ A,Bの新鮮な♀の個体25頭の腹部先端を軽くさわって、しこりのある・なしで既受精・未受精を調べてみた。結果は、既受精5頭、未受精18頭、判別しにくいもの2頭であった。C,Dの♀の個体は4頭とも全部既受精であった。（13頭目から調査した）

### 3 調査から判明したことと考察

- ・ 秋(11月～12月)の宝島のアサギマダラの数、数千頭ぐらいたと推察するが、これには九州から南下した個体がいる。
- ・ これらのアサギマダラは、12月から1月にかけてさらに沖縄諸島方面へ南下する個体がいる。また、そのまま宝島に居残り、宝島で越冬する個体もいる。
- ・ 宝島から沖縄方面へ南下するアサギマダラと宝島で越冬するアサギマダラの割合は、これだけの調査ではまだデータ不足で結論づけられない。しかし、12月初旬のアサギマダラの数と2月下旬の越冬アサギマダラの数と比較すると圧倒的に秋の方が多。こなくなったアサギマダラはいったいどうしたのだろうか？タカラ454と同じようにほとんど南へ渡っていったのだろうか。また、宝島で越冬するアサギマダラの死亡率はどれくらいなのだろうか。また新しい疑問がわいてきた。

### 4 おわりに

3回の調査結果を自分だけのものにしておくのではなく、広く多くの方に知ってもらい、アサギマダラ長距離移動研究の一助にでもなればと思いまとめてみた。少ない調査回数と調査データで無理に推論しすぎた面もある。より正確な情報を得るためにも、アサギマダラ長距離移動調査にこれからも携わっていきたい。

越冬していた  
「タカラ 20」

